2011 年にシリア内戦が始まり、レバノンに 100 万人を超えるシリア難民が流入しています。そのレバノン北部のトリポリに、赤十字国際委員会(ICRC)は 2014 年に武器創傷外科トレーニングセンター(WTTC)を開設しました。その目的は主に二つあり、一つは紛争犠牲者に対して医療や看護、リハビリテーションや心理的サポートなど包括的な医療を提供することです。もう一つは、レバノン大学において、ICRC が持つ豊富な戦傷外科に対する知識や技術を、レバノンを含む中東の医学生などに教育やトレーニングを行い、学術的モジュールを確立するというものです。

私は、2014年にWTTCを立ち上げるために活動したことがあり、今回は2度目になりました。 同じ活動地で同じ事業に携わるという経験は、これまで私にはありませんでした。前回の活動時に 良かれと思って行ったことが、それほど成果を得ていなかったり、あるいは逆に疑問に感じていたこ とが効果的に運用できていたりと、自分の行ったことを見る、非常に貴重な機会にもなりました。

WTTC で再建手術を受ける患者さんは、何年も前に手術を受けたという方々が多数を占めます。 中には難しい手術も多く、入院期間も長くなります。看護師は、患者さんの術後の状態の観察など 身体面での看護ケアを行うだけでなく、時には 1 年にも及ぶ入院生活を送る患者さんの精神面へ の看護ケアも、本当に親身になって行っていました。

患者さんの治療経過も長いため、前回の活動だけでは見ることが出来なかった再建手術の最終的な結果を、今回の派遣で見ることができました。偶然、外来に来ていたその患者さんに会った時は、杖をついてはいましたが、自分の足で歩いていたので、感動したことを覚えています。執刀した整形外科の専門家ですら、「彼が足を切断せず回復したのは、本当に数少ない奇跡だ」と言っていました。

今回の活動を通して強く感じたことがあります。WTTC で行っている再建手術とは、体の機能を再建するためだけではないということです。患者さんのこころを再建し、生活の自立を再建し、そして家族を再建し、社会生活を再建し、人生を再建していくのだと思います。ICRCはWTTCと同様の活動を、レバノンの首都ベイルートでも開始し、救急外来部門はすでに稼働を始めています。今後、より多くの内戦犠牲者の人々にICRCの援助が届くようにと、強く思っています。



再建療法を受けているシリアの患者さんと (右端が筆者)



レバノンのスタッフと国際色豊かな赤十字国際委員会 のメンバーたちとともに